

ひめじ市民法律事務所

# 市民法律だより

## 明けましておめでとうございます

箱詰めの社会の底で潰された蜜柑のごとき若者がいる

晩秋に、1984年生の萩原慎一郎さんの歌集「滑走路」（角川書店）に出会いました。

いま、若い人のことを思います。

牛井屋頑張っているきみがいてきみの頑張り時給以上だ  
この街で今日もやりきれぬ感情を抱いているのはぼくだけじゃない  
今日も雑務で明日も雑務だろうけど朝になったら出かけてゆくよ  
非正規の友よ、負けるな ぼくはただ書類の整理ばかりしている  
屋上で珈琲を飲む かろうじておれにも職がある現在は  
今日という日もまた葉 読みさしの人生という書物にすれば

「滑走路」

選び抜いた言葉の珠が、胸を打ちます。頑張っても頑張っても未来が描けない自己責任社会・「格差立国」の孤独と葛藤。ここにきて、日本は外国人「単純労働者≒移民」受入れへと舵を切ろうとしています。

「君だけじゃない。ここを一緒に乗り越えよう。一步一步。」平成の代が変わっても、一人ずつを暖めようとする私たちの仕事に、終わりはありません。

あらためて皆様のご健康とご多幸を祈念し、丁寧なよい仕事を続けてゆく決意を述べて、新年のご挨拶と致します。

2019年(平成31年)元旦 所員一同



### 発行責任者

〒670-0952 姫路市南条10-4

ひめじ市民法律事務所

所長 弁護士 平田 元 秀

弁護士 吉谷 健 一

電話 079-282-0430

FAX 079-282-0433

<http://himejishimin.com/>

### 事務所営業時間

月～金 午前9時30分

～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

### コンテンツ

年始のご挨拶	1
弁護士の小話	2
弁護士のよもやま話	3
エッセイ	4
事務所旅行	4
事務所員アンケート	5
行ってきたよこんなお店	6
編集後記	6

## 無名・無数のヒーローの魂を紡ぐ -「クアトロ・ラガッツィ」と石牟礼道子さんの「沖宮」



弁護士 平田元秀

渡辺京二さんの「バテレンの世紀」については前号で触れました。この本を初夏に読み終えた後、昨秋10月に、熊本・水前寺まで、石牟礼道子さん（昨年2月他界）の創作能「沖宮」（おきのみや）を観劇する機会を得ました。「沖宮」は、今は霊界の人となった天草四郎が、雨乞いの人柱となって船で沖に送り出される四郎の乳兄弟「あや」の手を引いて、竜神の待つ沖宮へとすすむ道行きを描いた創作能です。

姫路の詩人・葦妙子さんのお誘いを受けてのもので、観終えて、薪能の作品の素晴らしさとともに、その世界観について「これは何と表現したら良いのだろうか」という深い印象を持ちました。

前号では「バテレンの世紀」を引用し、(安土桃山時代に活躍したイエズス会の)「説法者の人となりや振る舞いとはどれほどのものか」と書いたところ、さっそく岩手県水沢の同期の弁護士から、葉書が来ていわく『「クアトロ・ラガッツィ」は読んだの?』との言。クアトロ…とは、なんともラテン的な響き。日を置かずジュンク堂で、見つけました。「クアトロ・ラガッツィ 天正少年使節と世界帝国 上・下」(若桑みどり・2008年)。

それ以降「寝枕と旅の友」が、この本に変わりました。この本は夢中になれる本です。「私が書いたのは歴史を動かしていく巨大な力と、これに巻き込まれたり、これと戦ったりした個人である。このなかには信長も、秀吉も、フェリペ二世もトスカーナ大公も、グレゴリウス三世も…登場するが、みな四人の少年と同じ人間として登場する。彼らが人間としてすがたを見せてくるまで執拗に記録を読んだのである。」読んだ記録は、日本の歴史資

料だけでなく、イエズス会やヴァチカンの古文書館の一次史料。「ここには権力にさからい、これと戦った無名の人々がおおぜい出てくる。これらの四人の少年はそれぞれの強い志を持ってそれぞれの人生をまっとうした。」「そしてもし無名の無数の人々がみなヒーローではなかったら、歴史をたどることになんの意味があるだろうか。」

思想史家・渡辺京二さんの本は自分で見つけて買ったものでした。詩人・葦妙子さんに勧められて「沖宮」を観劇する旅に出たのは、この本との出会いとは無関係の偶然でした。でも、調べて見ると、渡辺さんは石牟礼さんのために筍の煮物を炊いたり、その臨終に立会するほど石牟礼さんと深い縁で結ばれた人でした。そして、若桑さんの「ラガッツィ」は、岩手の友人が偶然勧めてくれた本でしたが、どうやら、私に「沖宮」の深い意味を伝える触媒のような役割を果たすように感じてます。

石牟礼さんは、水俣の人たちの名状しがたい生死と闘争を心と体に受け入れ共振させてきたような方だと思いますが、原城でうち果てた天草四郎と島原の人たちの戦いのことを、生い立ちも、どうしてそう行動したのかも分かる形で同時代的に理解していた。クアトロ・ラガッツィの悲劇は天草四郎の悲劇へと紡がれ、それは個人の尊重を基本原理としない大日本帝国の敗戦と長崎への原爆投下の悲劇、水俣の悲劇へと紡がれ、石牟礼さんを生んだ。石牟礼さんは、だから、「雨をたもれ」と雨乞いの人柱に身を差し出す「あや」の能を私たちに見せるのか。これは、時代を超えて私たちに受け継がれるべき無名のヒーロー（生け贄となることを選んだ者）の魂を紡ぐ能だと受け止めました。(2018年12月4日記)

## 「こんな店あったよ 明石編」

弁護士 吉谷 健 一

弊所に入所して7年、事務所だよりの原稿を書き続けて、他の職員一同の記事にも目を通していますが、自分も書いてみたいと思った内容があります。

それは、飲食店の紹介記事。

依頼者の皆さんや周囲の弁護士など、時々反響をいただくのが、「行ってきたよこんなお店」のコーナーです。

やはり、食べ物というのは、老若男女問わず馴染みやすく気になる話題ということでしょうか。

とはいえ、姫路のお店は既にかなり紹介してきており、これからも探訪の旅が続くものと思われま。

そこで、今回は、私が30年間過ごしてきた明石のお店について、お勧めと思われる店をいくつかご紹介しようと思います。

### 1 ふなまち

明石といえば、明石焼きです。

地元の方は、明石焼きのことを「玉子焼き」(卵焼きではない)とよび、このようによばないと「あんたはいつからよそ者になった」と叱責されます(当職の親のことです)。

その玉子焼きの店でお勧めするのが、このお店。

駅から少し歩く必要があるのですが、いつも狭い店の前に長蛇の行列を作っています。

私の学生時代には、数人待てば買うことができる程度の静かなお店だったのに、テレビや雑誌で紹介され、ネットですぐに情報が拡散される昨今、常に10人近くは並んでいる印象です。

その人気の秘訣は、玉子焼きには欠かせないふわっとした食感と、20個550円というコストパフォーマンスです。

長時間待ち必至ではありますが、一度はお試しを。

### 2 くるみや

地元では有名な老舗洋菓子店。明石では本店を中心に3店舗展開していますが、な



ぜか札幌にも支店があるようです。

ケーキはもちろん、ソフトクリームやシュークリームなどの

洋菓子もそろえています。

どれも美味しいのですが、お勧めは、シフォンケーキ。ほどよい甘さの生クリームと、ここでしか味わうことのできない(※個人の感想です)柔らかくしっとりしたスポンジケーキがよい感じ。この年齢になると、甘さもほどほどのものが多いと思います。

余談になりますが、中学時代の同級生でこの店の経営者の親族の方がいらっしゃいました。シフォンケーキとは似ても似つかぬ濃いキャラクターの持ち主でしたが、元気にしているかなとふと思い出しました。

### 3 ビストロ マルコポーロ

明石駅の東隣にある朝霧駅近くの高台に位置する、フレンチのお店。

ビストロといえばフランス、マルコポーロといえばイタリア、これいかにと感じますが、フレンチのお店です。

その名前の由来はご自身でお確かめいただくとして、この店の特徴は、地元の明石の魚を使ったフレンチと、その店から見渡せる明石海峡の眺めです。

コースによって、お肉と魚が選べますが、明石に来たということであれば魚料理はいかがでしょうか。

パンも美味しかったですし、オードブルも丁寧な仕事で、眺望も文句なしと揃っています。

予約可能ですが、海が見える席の予約はいつも埋まっている印象ですので、お早めに。







## 「絵本の思い出」



子どもの頃、毎週のようにこども図書館に通って、夢中になって絵本や物語を読んだ。

長女が生まれてからは、寝る前に必ず絵本や物語の読み聞かせをしていた。上から下まで8学年離れているので、かなり長い間読み聞かせをしたことになるが、それ自体が好きということもあったし、子ども達の反応も楽しくて、一日の終わりの大切な時間だった。

今でも大好きな『ぐりとぐら』の絵本。ぐりとぐらが作るふわふわのカステラも、『ぐりとぐらのおきゃくさま』のサンタクロースが作るチョコレートがたっぷりかかったケーキも、本当に美味しそうでワクワクして何度も読み返した。

次女が生まれた頃、長女が大好きだった『はじめのおつかい』や『あさえとちいさいもうと』。長女は食が細すぎたので、まだ1歳か2歳の頃、夫が『ばくばくもぐもぐ』の食べ物の絵の上に魚などをのせて、主人公と一緒に食べさせていたことも。

次女が好きだった『ふたりはともだち』などの「がまくんとかえるくん」シリーズ。優しいかえるくんとのおんびりして面白いがまくんの友情のお話。病気がかえるくんを元気づけようとお話を考えるがまくんが、結局何も思いつかなくて逆に調子悪くなってしまふ「おはなし」など、ユーモラスで心温まる絵本。いたずら犬『どろんこハリー』のシリーズも繰り返し読んだ。

末っ子が大好きだったのは、『しょうぼうじどうしゃじぶた』や『どろんこごぶた』など。「じぶた」は小さくて、いつも馬鹿にされていたが、最後は自分の個性を発揮して活躍し、みんなの人気者になるお話で、後に人形劇でも一緒に観て楽しんだ作品。『どろんこごぶた』は泥の中に沈むのが大好きなごぶたが、工事中のセメントに埋まって固まってしまい、道路を壊して助け出されるというユニークなお話。

「じぶた」のように人形劇やお芝居から、もう一度原作に出会うことも。最近では佐野洋子の絵本『だってだってのおばあさん』もその一つ。99歳のおばあさんが5歳になってしまう!? お話。心の持ち様でいくつになっても日々を豊かにできる、童心にかえて元気が湧いてくる、そんな絵本だ。この絵本の人形劇（人形劇団むすび座公演）は3月末にイーグレ姫路であるので、興味ある方はぜひ。

「クマのプーさんえほん」（もちろんディズニーではない）や「ピーターラビット」のシリーズなど、一緒に楽しんだ絵本の数々。中には吹き出しそうになるのを堪えながら読み聞かせたものも。長年読み継がれてきた絵本は、大人になって読み返しても楽しく、子どもの頃とは違う発見があったりする。新しい絵本の中にも、きっと読み継がれていくものがあるのだろう。最近ではめったに絵本のコーナーには行かないが、そういう絵本にまた出会えたら楽しい。

(美)

## 夏の一大イベント、事務所旅行

今年の夏の事務所旅行は、京丹後方面に行ってきました。一日目は、赤れんが博物館を巡った後、伊根の舟屋を散策しました。舟屋は、1階の船の収納庫部分が、伊根湾の海面にせり出していて、その上が、住居になっている造りです。ドラマや映画のロケ地にもなっていて、湾を取り囲むように立ち並ぶ舟屋群は、時間がゆったりと流れるような異次元の空間のようでした。私は、吉谷弁護士と事務局のK上さんと一緒に、舟屋の一角にあるインスタ映えのする「INE CAFÉ」というカフェに行ってみました。平田弁護士は、台湾茶専門店に行かれたようです。それぞれ、キラキラした水面を見ながら、素敵な時間を過ごす事ができました。伊根の舟屋を散策した後は、本日のお宿である奥伊根温泉の油屋に向かいました。部屋から見える海の景色と温泉に癒やされました。翌日は、伊根湾をめぐる遊覧船に乗って海の方から舟屋群を眺めました。飛んでくるカモメにえさ(かっぱえびせんでした)をあげることもできます。船を下りた後は、天の橋立方面に向かいました。元伊勢籠神社にお参りし、股のぞきで知られる笠松公園を散策しました。

天の橋立を望むロケーションのいい雪舟庵というお店で、お魚料理を頂き、観光船で対岸に渡りました。本当は天橋立の松並木をレンタサイクルで走る予定でしたが、その日は猛暑日で、断念しましたが、気候のいい頃には、是非お勧めの行程です。

今回の旅行では巡ることができませんでしたが、京丹後方面には、ほかにも見所がたくさんありますので、また行ってみたいと思います。

(溝)



# 事務所員アンケート



## 事務所員全員にインタビューしました!!

### ★ 2018年で一番の事件

自動車免許を初めて取得したのは18歳のときだから、免許証とはかなり長いつきあいになる。それが今回の更新にあたり、初めて金色の帯がついた。「ゴールド免許」だ。永年表彰のようなものかな。えっ。5年無事故無違反なら誰でももれなくもらえるんですか？25年も前からそうなの？「皆さん、これは事件です。」はい。引き続き、車も事務所も安全運転に努めます。

(平田)

初めて、GLAYの故郷、函館に行ったこと。地震の1週間後だったので行ってもいいものか迷いましたが、五稜郭タワーからのパノラマ、異国情緒溢れる坂道の雰囲気や古い教会建築、函館山からの夜景も素晴らしかったです。8月のライブに残念ながら行けなかったので、次回開催される時は、聖地のライブに絶対参加したいです。

(美)

ある日、裁判所から帰ってくると、事務局からの伝言が。

聞くところによれば、以前の弊所の依頼者の方がお越しになって、事務所だよりの私の記事を読んで、将棋のことでお話しに来られたとのこと。

その方も将棋が好きで、四段で長谷川女流と指して勝ったこともおありだということで、機会があればまた交流できればとのことでした。

囲碁を打つという方は時々お見かけしますが、将棋は珍しく、私の記事を読んでわざわざ来てくださる方は初めてで、嬉しいお知らせでした。

昨今の藤井聡太さんのブームも手伝ってか、姫路には今年、駅前には将棋センターもオープンしました。

他にもこうしたお話があれば、またお聞かせいただければと思うところです。

(吉谷)

ある日、家に帰ると何やら床に動く物体が。なんとヤモリが床を這っているのです。私は、生き物が嫌い(-\_-;)恐怖で動けず呆然としてしていると、ヤモリはマイペースで部屋の中に消えていってしまいました。慌てた私は、部屋の中を恐る恐る筆筒の後ろなども懐中電灯で照らして探してみたのですが、どこにも見当たりません。これは大変!!寝ている間に出てきては困る。ヤモリが隣の部屋にはいないことを確認し、自分のいる場所を確保(締切)しドキドキしながら一晩を過ごしました。翌日、仕事帰りに息子から「ヤモリが出てきてまたもや床を這っている」との連絡が。急いで帰ってみると、虫取り網を使いつぶさないようにそっと捕まえているところで、それを見た私は、ほっと一安心しました。捕まえたヤモリは家の外にそっと逃がしてあげたのですが、その時初めてヤモリの鳴き声を聞きました。ヤモリの出現これが私の大事件でした。

(ひ)

2018年で一番の事件は、5月に私が大好きでカラオケでもよく歌っているタレントで歌手の方のミニライブを見に行き、握手をしてもらったことです。それはそれは天にも昇る嬉しさでした。

CDを購入したら握手会に参加出来るということで、1枚購入し握手会の列に並びました。かなり緊張しました。自分の番になったのに緊張のあまり私は何も話せずでしたが、「今日は来てくれてありがとう！」とってもらえました。すごくすごく綺麗でした。手もやわらかでした。今まで生きてきた中で一番綺麗な方でした。歌もすごくすごく良くて、涙がこぼれました。

(川)

今年は、同じアーティストのライブに2度行くことが出来ました(^.^)。2度目は、立ち見席しか取れず、「ちょっと遠いなあ」と思っていたら、ライブの終盤に、アーティストの計らいで、なんと！目の前に(半径30センチ以内)やってきてくれて、歌ってくれました(^o^)

触れていいのか、いや駄目なのか…悩んでいるうちに、アーティストは2階席の方に行ってしまう、再び1階に戻ってくるころには、ファンに揉みくちやになっていました(^.^;)。嬉しかったけど、心残りもある、私にとって、今年一番の事件でした。

(溝)

## ～行ってきたよ こんなお店～



今回ご紹介するお店は、姫路駅の北側にあるグランブルーです。ボジョレーヌーボーの解禁に合わせて取材を兼ねて行ってきました。お店の中にはワインのボトルがたくさん飾

られていて、とても素敵な雰囲気です。

今年のボジョレーは、フランスが今年暑かったので果実の豊かさあふれるワインに仕上がっている、とお店の方に教えて頂きました。ワインで乾杯のあと、お料理です！



まず最初に頂いたのが、人参のムース。ムースはとても甘く、トマトとブロッコリ

ーの上からコンソメのジュレがかかっています。一口頂いて思わず、美味しい～と言ってしまいました。続いて頂いたのは、エビのプティグラタン。運ばれて来た時からとてもいい香りがしていました。エビとシメジが入っていて、そのままでも美味しかったです。バケットに付けて頂くと絶妙な美

味しさでした。すでにかなり幸せな気分・・・

本日のオードブルは、アボカドとサワラのフリッター。お魚料理に



は白ワイン！ということで、希望者はシャルドネを頼みました。メインディッシュはカツレツ仕立てのバロティーヌです。長芋



とレタスが鶏肉で巻かれていて、長芋のサクサクと、柔らかいささが絶妙な食感で

した。デザートは見た目も素敵で、柿のタルトとマカロン。個人的には、マカロンがとっても美味しかったです。

お店もお店の方もとてもあたたかい雰囲気、楽しいディナータイムを過ごすことが出来ました。是非またお伺いしたいです。



(川)

### 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今年は、年号が新しくなる歴史的な年になります。どんな年号に変わるのか非常に興味深いですね。

市民法律だよりも今回で18号の発送です。これからも、皆さんに事務所のこと事務所員のことを楽しくお伝えできるように発行していきたいと思いますので、ぜひご愛読ください。

今年も一年、事務所員一同よろしくお願いたします。

(ひ)